

## 第三者評価結果

日本語教育機関名：カイ日本語スクール  
設置代表者：山本 弘子

### ◇簡潔に記述

1.1  
理念

日本留学の意義を追求し、イノベーションをキーワードに学生の自己実現を日本語教育を通じてサポートする。

1-2  
教育目標

日本語の4技能をバランス良く身につけること。学習者が日本語コミュニケーションを理解して、よい人間関係を作れること。自律的に学べる学習態度を形成すること。

### ◇評価項目

#### 2 組織

\* 達成状況、課題、改善計画等(400字程度で記述)

・教員採用においてはウェブサイトにて要件を明記し、書類審査と面接でその知識、能力、資質について確認し採用を決めている。採用後は研修を通して、教育理念、教育目標についての意識の浸透と、教授技術の基準レベルまでの引き上げに取り組んでいる。また全教員に向け、年4回の全体研修を実施し、教員の能力向上および最新研究の知識の共有等を図っている。  
・教職員全体向けには、年に4回、学期ごとに、全体会議を行ない、運営上のコンセンサスを図っている。  
・教員の評価に関しては、毎年5～6月に査定(授業見学+自己評価+主任評価)を行い、毎年授業見学及び自己評価を実施している。  
・職員は新年度に向けて社労士とともに評価項目を作成中である。

・教員の採用段階で求める人材の要件が明示され、採用後は教育の質の維持・向上を目指して研修が行われている。また、教員の評価に関しては、自己評価・学校の評価等が適切に行われ、フィードバックされている。組織図及び事務分掌も整備されている。  
・職員の評価項目に関しても早めの策定が望ましい。

#### 3 財務

\* 達成状況、課題、改善計画等(400字程度で記述)

・通常の出納業務は事務局の担当者が行う。経理は非常勤職員により、月々の収支が報告され、4半期ごとに公認会計士による報告を受け、経営判断を行っている。  
・財政状況については、未だ震災・円高の影響が残っているが、学生数は増加に転じ、安定した増加傾向にある。円安だけでなく、信頼できるエージェントとの関係が深くなりつつある。また、2015年7月に増床した教室の改装等の出費の影響はあるが、学生募集状況は好調で、今後しばらくは安定して上向きが続くと予想している。会計監査は内部監査役による。

\* 講評

・公認会計士と内部の監事による監査が正しく行われていることを確認した。ただ、決算書(貸借対照表・損益計算書)が当日の「提示」となったが、今後は「添付」資料とすることが望まれる。

#### 4 教育環境

\* 達成状況、課題、改善計画等(400字程度で記述)

・教室は、毎学期のアンケートで学生たちから寄せられる様々な声に応える努力を続けている。  
・2010年には、全教室を色彩の専門家にデザインを依頼し、居心地よく学べる環境を作った。また、学生の使う椅子には特に神経を使い、アクティブラーニング向けの椅子機に入れ替えつつある。  
・2013年から全教室にプロジェクタとアップルTVを配備。無線ルータの容量も大幅に変更し、ICTを取り入れた教室環境を整えつつある。  
・また、2013年より、タブレットを使用した授業の取り組みを始め、まず教師全員がタブレットを持ち、次に2014年10月より学生全員にiPadを貸与。学校内での教材配信、学生の課題提出などでもできる環境を整備している。

\* 講評

・教育環境の整備には多くの努力が払われていることを現地で確認した。建物自体は決して好条件とは言えない中で、ハード面の教室配置とICT環境の充実が実現されており、高い評価に値する。また、10月からのiPad導入によるICT教育に向けてハード・ソフト両面で精力的に準備を進めており、日本語教育の質の向上に大きな一歩となり得るものである。

## 5 安全・危機管理

### \* 達成状況、課題、改善計画等(400字程度で記述)

- ・安全・危機管理対策としては、阪神淡路大震災、東北大震災、SARS流行を教訓に、それぞれの管理体制を整備し、行動マニュアルを作成した。
- ・疾病に関しては、緊急時に受診可能な近隣の医療機関の一覧を作成し、対応をしている。
- ・阪神大震災をきっかけに、防災訓練を年に4回、学期ごとに、教務主任が中心となって訓練計画、実施、改善を行っている。

### \* 講評

- ・国民健康保険及び留学生保険には全員加入、留学生保険は毎年100人程度が補償を受けている。
- ・重篤な疾病等発生時の状況把握、対処、事後措置についてマニュアルに適切に記載されている。
- ・感染症(インフルエンザ等)発生時(昼夜とも)の対応マニュアルが整備されている。
- ・危機管理体制については、指示命令系統、対策会議招集責任者(校長、事務局長、教務主任)、緊急事態連絡網がマニュアル化されている。火災、地震(戸山公園)、台風等の発生時における避難方法等がマニュアル化されている。
- ・避難訓練は年4回実施しているので、留学生も熟知しており、東日本大震災時もスムーズな避難が実施できた。

## 6 法令の遵守等

### \* 達成状況、課題、改善計画等(400字程度で記述)

- ・コンプライアンス担当者2名を指名し、外部のコンプライアンス研修に参加させた。研修後、職員への研修報告によって知識の共有を図った。個人情報保護のための対策としては、申込書、ビザ、パスポート情報等の個人情報を含む書類は事務室の鍵付きのキャビネットに保管することを徹底している。法令関係の対策は、適宜、話し合いや問題提起による意識付けと注意喚起を行っているが、文書化や専門家との連携など、さらに質的に向上する取り組みを行いたい。

### \* 講評

- ・法令遵守に関する担当者を確認した。コンプライアンス意識を高めるための取り組みは行われているが、課題ごとに具体的に取り組み内容を整理しておくことが望まれる。また、受発信簿で入国管理局等への届出、報告を遅滞なく行っている。
- ・個人情報等に関する書類についてハード面(暗証装置)・ソフト面(特定職員)が有効に機能しており、適切に管理されていた。

## 7 運営方法等

### \* 達成状況、課題、改善計画等(400字程度で記述)

- ・管理者の責任のもと、各職員が就業規則に則り業務を遂行する体制を取っている。
- ・2014年より年に1度、職員それぞれが業務の棚卸を行ない、個々の課題を明確化し、次年度の目標設定を行っている。
- ・料金に関する情報や返還規定に関してはウェブサイトおよび申込書に記載している。
- ・領収書の希望があった場合は、支払い手段に応じて領収書か授業料振込明細書を発行している。
- ・情報は日本語、英語、中国語(簡体字、繁体字)の3言語に対応したものを整備している。

### \* 講評

- ・現在の管理運営は適切に実施されているが、この組織の管理運営がより効率的に機能するよう、管理運営業務規程を整備したところである。
- ・意思決定は、校長、事務局長、教務主任を中心に行われている。業務の見直し等については、個人ごとに行う業務の棚卸表を踏まえて改善等を進めている。学費及びその他納付金等については、WEBサイトに明確に登載されている。学費の支払い方法については、募集要項のPDFに登載されており、面談及びメール照会時に説明している。学費の返金規程は、WEBサイトに登載されており、「日本語教育機関による留学生受け入れに関するガイドライン」に整合している。学費の納入に係る領収書は発行している。情報提供はWEBサイトに日本語、英語で登載している。

## 8 学生募集と入学選考

### \* 達成状況、課題、改善計画等(400字程度で記述)

- ・直接入学志願者への対応は選任された担当者が必要な資料を用いて丁寧に行っている。
- ・また担当者により定期的に情報の更新を行っている。
- ・募集活動は、WEBを中心に、パンフレット、エージェント、海外説明会などを通して行っている。
- ・エージェントへの情報提供においては、WEBの更新、ニュース配信を適宜行い、場合によっては直接連絡を取り、正確な情報提供に努めている。
- ・入学選考基準についての概要はウェブに記載している。その他の詳細や方法に関しては問い合わせ時にメールや直接対応で情報提供を行っている。
- ・学生情報は問い合わせ時に概要を聞き取り、合わせて入学申込書で確認を行っている。
- ・学習者のニーズに関しては、コース選択の際のやりとりの中で細かく情報提供を行っている。加えてプレイメントの段階でインタビューによるカウンセリングでニーズの確認を行っている。

\* 講評

・募集活動は分かりやすく記載されたコース案内、カリキュラム案内、料金案内などのパンフレットやウェブサイトで行っていることを確認した。入学選考は選任された担当者が入学を希望してきた者に対し、ニーズ調査等をしたり、プレイスメントテストを行ったりし、相互で理解、納得した形で受け入れていることを確認した。

## 9 教育活動

\* 達成状況、課題、改善計画等(400字程度で記述)

・理念、教育目標を中心に据え、GEFRを参照し作成した評価体系をもとに、カリキュラム、教材を選定している。教材作成にも著作権に留意している。  
・プレイスメントについては、入学前、オンラインのプレイスメントテストとskypeでのレベルチェックで個別に判定する。カリキュラム、学習内容、進級ルール、学習上の留意点などはオリエンテーションで資料配布とともに伝え、母語別交流会などでも情報提供、交換などを行っている。学生からのリクエスト、質問などには直接交流会で答えている。成績は学生の自己評価に対し、教師が面談で教師評価を伝え、観念の相違などあれば相互に話し合う。  
・特定の支援が必要な者については学習サポート体制を整備し対応している。  
・成績に関しては、学期ごとに行うテスト後、学生自身による自己評価と教師による評価を照らし合わせ、面談を行い、成績や学習状況についてのアドバイスを行っている。

\* 講評

・理念・教育目標は教師間で共有されており、高い評価に値する教育活動が実施されていることを確認した。将来的要望として、反転授業のいっそうの充実、教室内活動におけるアクティブ・ラーニングのさらなる教師の意識化が望まれる。そのため、教材及び教師研修の改善に向けて、鋭意取り組んでいる姿勢も評価できる。

## 10 学生支援

\* 達成状況、課題、改善計画等(400字程度で記述)

・入学時に、入学者全員を対象に、オリエンテーションを実施している。内容は、学校紹介、カリキュラム、学生生活、ビザ、法律、交通ルール、その他。オリエンテーションに対する学生たちの評価は高い(毎回のアンケート結果)。  
・また、新大久保駅、商店会、小学校、新宿区との交流、協力などを行うことで、地域貢献と同時に学生の市民意識を高めることも視野に入れ、協働関係を続けている。  
・入国、在留指導については、入り口の段階で私費留学に耐えうる経済的能力と学習能力および学習意欲の有無を厳しく審査している。OECD諸国出身者を中心に募集活動を行い、学費の設定を高くしているため、問題は非常に少ない。  
・出席率が低い、モチベーションが下がった、などの問題には、事務局と教務が連携して問題解決にあたっている。

\* 講評

・過去3年間(2012年～2014年)、不法残留者等を発生させていないことが、本校の学生支援が必要かつ十分に行われていることを証明している。これは、入学時のハードルを高く設定していることから、学生の多くが欧米系(上位3国は、スウェーデン、スペイン、イタリア)であるため、経済力、学習能力・意欲等を正確に把握することが可能と見られる。  
・なお、本校の特色として、本校の最寄り駅である新大久保駅(JR)で多国語による構内放送に学生が協力しており、地元への貢献度は十分評価に値する。

## 11 教育成果

\* 達成状況、課題、改善計画等(400字程度で記述)

・外部試験の結果については、学校から聞き取りするが、結果は学生の自宅に届くため、完全に全員分把握は難しい。修了オリエンテーションを毎学期行い、そこで卒業後の進路の把握とその後についての調査協力を求めている。  
・学校として、多国籍な学生の卒業後の進路の把握は厳しかったが、現在はFacebookに登録している学生の場合、帰国後であっても動向がつかみやすく、利用している。

\* 講評

・必ずしも長期間にわたって在籍する学生ばかりではないので、全員の動向把握は難しいが、近年はFacebookなどを充実させ、学生・卒業生とのネットワーク強化の方向を進めつつある点を、口頭で確認した。より積極的に進める方向が望まれる。